様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１３１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ００４５９

研究課題名（和文）2010年代における外国人留学生のメディア利用と異文化適応についての研究

研究課題名（英文）Survey for media usage and cross-cultural adaptation of international students in the 2010's

研究代表者
中村　隆志（NAKAMURA, Takashi）

新潟大学・人文社会科学系・教授

研究者番号：６０２６４９６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、2010年代において増加を続ける外国人留学生のメディア利用と異文化適応について調査を行ったものである。ほとんどの外国人留学生が携帯電話などのモバイル機器を持ち、24時間無料で、母国のニュースを得つつ、社会的コミュニケーションを同じメディア機器で行えることから、彼(女）らの人間関係とニュース視聴には強い関連があると推測される。
　日本にいる留学生238名にアンケート調査を行い、メディア利用状況の分析を行った。彼(女）らのニュース視聴と人間関係の間には強い相関があり、また、国際的に俯瞰的な視点を持ってニュース視聴を行う者には、ホスト国（日本）の友人との関係が強いことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
2010年代、外国人留学生は増加を続け、受け入れ機関の負担増となっている。また、留学生が増加するほど、ホスト国学生との交流疎遠になってしまう場合も多いとされている。彼(女）らが、友人達と行う会話の話題や関心事は、メディアを経由することが多く、その情報共有も同じ機器で行われることから、メディア利用の実態を知ることが、留学生のコミュニケーションの状況を改善するための契機になると予想される。調査の結果、人間関係はニュース視聴に大きく影響され、さらにニュース視聴は国際的観点の広さに影響されることから、留学生を増加させる政策は、現場の事情をくんだ形での国際的視点の涵養が必要なことが示されたと考える。

研究成果の概要（英文）：This research examines the relation between interpersonal communication and news viewing of international students in Japan.
 In the 2010s, the “new media,” such as smartphones, have become widely diffused, and media environment has greatly developed around the world. Communications of international students should have been influenced by the development of media, and it is possible that the cross-cultural adaptation theory has become inconsistent. To declare the relation, a survey was administered to international students at three universities in Japan (n=238).
 The analyses confirmed that news browsing was associated with international students’ personal relationships and that host news viewing and native news viewing were correlated to each other. Furthermore, they also revealed that the reasons to consume news predicts social activities of international students and that news viewing with comparative perspective should enhance the relationships with host country friends.

研究分野：情報メディア論・コミュニケーション論

キーワード：留学生　メディア利用　異文化適応　ニュース視聴　ケータイ　異文化コミュニケーション

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

21 世紀に入り、世界の大学間で、留学生獲得競争は激化しているといって良いだろう。留学生の増加に伴って、留学生とホスト国の学生との交流が増加することが内外から期待されているが、現実には、奏功しているとは限らない。グローバル化を目指して，多額のコストを費やしている政策が進行中であるが，当該者達の相互交流は，必ずしも好調とは言えない現状がある．一方で、人数の増加だけでなく、彼(女）らを取り巻く社会環境、中でもメディアの環境も変化している。携帯電話は 2000 年代に世界的に大きく普及したが、2010 年代に入って、さらにメディア環境は変化を続け、留学生に影響を与えている。主な要点として、

＊ニュースアイテムの世界的（無料）配信
＊SNS でのニュース共有，意見交換
＊Smart Media 端末の多言語化
＊クラウド化による個人設定・ファイルの維持

が挙げられる。いずれも、2010 年代になって、大きく顕在化した環境変化であり、2010 年代の留学生の社会生活を支えている。異国の地での心の拠り所を携帯電話に託しながら、それを常に持ち歩く彼(女)らの社会生活の実態について、可能な限り、理解を深める必要が増している。

２．研究の目的

外国人留学生との交流を促進するには，外国人留学生の希望内容，並びに彼(女）らの社会関係を知る必要がある．留学生の希望内容は，学業の達成のみならず，ホスト国との友人との Face-to-Face のやりとりを通した信頼の確立であることが，多くの知見から確かめられている．一方で, 後者の社会関係については, 近年のメディア環境が大きく関与していると考えられる．

とりわけ，メディア環境の変化，パーソナルメディアの変化の影響は大きく，彼(女）らは，いつでも母国の家族や友人と接触可能であり，また，母国から配信される情報は，処理しきれないほど豊富である．彼(女)らは，母国の文化から閉ざされた環境の中で，ホスト国の文化との齟齬に翻弄され，悩みながら耐え続けるような，かつての留学生像とは全く異なる環境にある．このようなメディア環境の中，留学生の SNS 利用とニュース視聴の実態を知ることが，本研究の狙いである．

本研究の目的は、SNS がもたらすコミュニケーションの増減を論ずる考察とは主旨が異なる。それらの考察においては、CMC や SNS の発展は，留学生に新しいソーシャルキャピタルをもたらして社会生活を豊かにするという観点に立つ研究が多い一方で，母国や留学生友達との繋がりやすさが，ホスト国との関係構築を損なっていると指摘する研究も多く，その評価は定まらない．また、SNS がつなぐ人間関係については，直接的に社会生活を豊かにするというよりも，既存の Face-to-Face 関係を支援する場合に留学生の満足度を向上させる，という考察が多い. しかしながら, SNS は連絡ツールとしての側面だけが取り上げられやすくなっており, SNS を利用したニュース視聴と社会生活との関係を論ずる研究は乏しい.

母国、あるいはホスト国における出来事や社会情勢は、帰国を前提としながら両国の関係を発展させようとする多くの留学生にとって、最大の関心事であると言って良いだろう。彼(女)らの学業と研究成果もまた、両国関係の発展というスキーム内で位置づけられる。彼(女）らの強い関心事と Information-seeking との関連を通して、ニュース視聴とその社会生活を理解することが本研究の勘所となる。

３．研究の方法

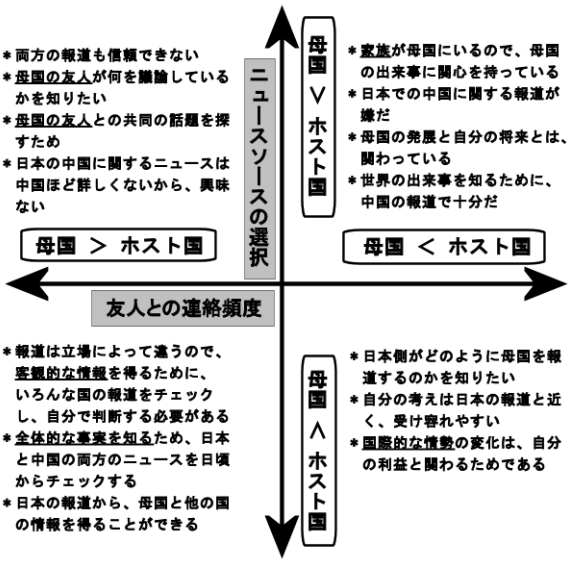
まず、予備調査として、新潟大学の留学生（交換留学生、私費留学生を含む）にインタビュー調査を行った。彼(女）らの友人達（母国・ホスト国を含む）との連絡時間とニュース視聴（同じく、母国・ホスト国を含む）に費やす時間を尋ね、さらにそのニュース視聴の理由について尋ねた。図１に概略の分布を載せる。インタビュー調査の結果を踏まえ、、調査規模を拡大することにした。

九州大学(2017 年実施)，埼玉大学(2017 年実施)，新潟大学(2016 年実施)の 3 大学で計 238 人を対象にアンケート調査を行った．調査用紙をガイダンス時に配布し，その後は，回収箱に投函してもらう方式で回収を行った.

設問は，滞在期間，ホスト国/母国配信のニュース視聴時間，ホスト国/留学生/母国の友人との SNS での連絡時間，ニュース視聴のためのスタートページの言語(ホスト国/母国/その他)を尋ねた．また、母国／ホスト国のニュース視聴について、その理由をインタビュー調査から得られた選択肢から複数回答可能な形で回答してもらった。

４．研究成果

図 1，母国・ホスト国の社会関係とニュース視聴



（1）予備調査の結果、彼(女）らの社会生活とニュース視聴が、その理由を含めて関連づくことが推測される結果を得た。彼(女）らのニュース視聴の理由は、先入観や偏見が交えて偏った傾向にあるものから、広い国際的視野を持って、俯瞰的に社会の出来事を理解しようとするものまで、幅広く拡がっており、それらが友人達の連絡時間、ひいては社会生活に強く影響していることが示唆された。

（2）3 大学（九州大学、埼玉大学、新潟大学）でのアンケート調査の結果、ニュース視聴と社会生活は密接に関連していることが確認された。相関分析の結果（Table 1），ホスト国ニュースの視聴時間とホスト国の友人との連絡時間との間，並びに母国ニュースの視聴時間と母国の友人との連絡時間との間にやや強い相関が検出された．ホスト国/母国のニュース視聴と対応する友人との人間関係には，強い因果関係があることが推測され，ホスト国ニュースを視聴することがホスト国での社会関係に強く影響する要因となっていることが示唆される．

Table 1. Correlation Coefficients (Note: **: p < .01, ***: p < .001)

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6
Q1: Length of stay	1.00					
Q2: Host news viewing	-0.15	1.00				
Q3: Native news viewing	-0.16	0.49***	1.00			
Q4: Host friends	-0.05	0.45***	0.18	1.00		
Q5: International friends	0.11	0.28**	0.16	0.23**	1.00	
Q6: Native friends	0.08	-0.13	0.34***	0.13	0.37***	1.00

（3）ニュース視聴のデフォルトホームページの言語選択は，滞在期間，留学生活で感じる困難さ，の影響下にあると考えられる．この知見が検出されたのは，デフォルトのホームページの選択が，いつでも設定変更可能であるが故に，利用者の関心の所在を反映しやすいためと推察できる。

（4）ニュース視聴の理由については、国際的視野を広く持っている者がホスト国のニュース視聴が多く、母国の利害関係を重視する者ほど、ホスト国のニュース視聴が短くなる傾向が得られた。ニュース視聴は、彼(女）らの社会生活に影響していることから、彼(女）らの留学満足度にも、大きな影響を与えるものと推測される。

（5）まとめとして、外国人留学生のメディア利用、なかでも社会生活のマネジメントとニュース視聴の間には、強い相関があることが確認された。さらに、ニュース視聴は、利用者本人の国際的視野の広さが動機になっている者ほど、ホスト国のニュースを多く取り入れていることが示された。このことは、外国人留学生の社会生活を、よりホスト国と結びつけていくための方向性を示していると考えられる。社会生活は、相手のいることである以上、急に変えることはできないが、ニュース視聴は、利用者の空き時間に行われるため、裁量が効きやすい。外国人留学生は、本来、国際的視野を持って渡航してきているため、その国際的視野を持続し、母

国のみならず、ホスト国のニュースにも関心を持って、視聴してゆくことによって、ホスト国の友人との会話が成立しやすくなるきっかけを得る可能性が高まると考えられる。ホスト国の友人との信頼関係の確立は、留学の満足度に直結しやすい傾向にあることがら、ニュース視聴を軽視せず、ホスト国への関心を持続させることが、外国人留学生のみならず、ホスト国側にも得るところが大きいと考えられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　0　件）

（1 件、投稿中）

〔学会発表〕（計　5　件）

① Takashi NAKAMURA, CONSUMING HOST/NATIVE COUNTRY NEWS AND INTERNPERSONAL COMMUNICATION OF INTERNATIONAL STUDENTS IN THE 2010S, International Conference on Research in Education and Social Sciences (ICRESS),(於：VIP Executive Entrecampos Hotel & Conference, Lisbon, Portugal, 2019.02.04)
② 中村隆志、2010 年代の外国人留学生の SNS 利用におけるニュース視聴・異文化適応、第 2 回共創学会年次大会、（於：東洋英和女学院大学、2018.12.09）
③ 中村隆志、黄偉明、2010 年代の外国人留学生の SNS 利用、ニュース視聴、異文化適応、2017 年　社会情報学会(SSI) 学会大会（於：駒澤大学、2017.09.17）
④ 黄偉明、中村隆志、留学生の国際報道の受容と異文化適応、日本マス・コミュニケーション学会、2015 年度秋季研究発表会　於：文教大学、2017.10.31）
⑤ 黄偉明、中村隆志、留学生のケータイ利用と対人ネットワーク・異文化適応、第 32 回情報通信学会大会、（於：青山学院大学、2015.06.21）

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
なし

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：柴田幹生

ローマ字氏名：Mikio SHIBATA

所属研究機関名：新潟大学

部局名：教育・学生支援機構
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：30293244

(2)研究協力者
研究協力者氏名：郭 俊海（九州大学留学生センター）
ローマ字氏名：junhai Guo
研究協力者氏名：中本　進一（埼玉大学国際交流センター）
ローマ字氏名：Shinichi NAKAMOTO

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。